逸機を表す複合動詞「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じる」の意味分析

南　明世

DOI: 10.18999/stul.35.25

1. はじめに

本研究はチャンスを逃したためできなかったという逸機を表す複合動詞の「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」の意味について論じたものである。例えば例(1)の場合、「死ぬ機会を失って、死ぬことができなかった」という意味を表しており、「V1−損なう」と「V1−損ねる」は置き換えることができる。しかし、同じ「死ぬ」でも例(2)のように「危うく死ぬところだった」という意味の場合、「V1−損なう」は言えるのに対し、「V1−損ねる」に置き換えると少し不自然になる。一方、例(3)のように「消そうとしたことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味の場合、「V1−損なう」には置き換えにくい。

(1) 三島楯の会事件の前夜、女と寝ていたために蹶起に間にあわず死にそこね(損なっ)た青年がいる、と設定する。

(平岡正明『大革命論』)

(2) 五十歳の時に死に損う(?損ねる)ほどの病気をして以来、私はあまり健康ではないはずである。

(鈴木健二『自分学のすすめ』)

(3) シチュエーションは駅のホーム。たばこの煙がたちこめています。灰皿では消しそこねた(?損なった)吸殻が狼煙をあげています。

(http://blog.livedoor.jp/nekosuki600/archives/51144891.html)

2021 年 8 月 29 日閲覧

次に「V1−損じ(ず)る」に関しては、例(4)のように「V1−損なう」「V1−損ねる」と言い換えられるものもあれば、例(5)のように言い換えにくいものもある。

(4) もう一ピエ半の距離もなく、どんな素人でも撃ち損じる(損なう/損ねる)はずがなかった。

(佐藤賢一『別冊文藝春秋』)

(5) 現金書留の封筒を書き損じた(?損なった/?損ねた)場合は捨てるしかないのでしょうか。

(Yahoo!知恵袋)

『明鏡国語辞典』[1]では「V1−損ねる」は「V1−損なう」のややくだけた用法、「V1−損じ(ず)る」は「〜しそこなう」の意味であるとしか記述されていないが、「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」は互いに言い換えられる場合もあるが、言い換えられない場合もある。そのため、本稿では「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」がそれぞれどのような意味を表すかについて考察する。

2. 先行研究

まず、「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」に関する先行研究として、城田(1998)と薛(2019)を取り上げて論じる。

1.1 城田(1998)

城田(1998)では「V1−損なう」「V1−損じ(ず)る」を「対象に現れる否定的結果に言及しながら、うごきを不完全なものとして描出する」(城田 1998:147)不首尾相動詞に分類し、そ

[1] 『明鏡国語辞典』にはそれぞれ次のように記述されている。
「V1-損なう」:(1)…することに失敗する。また、間違えて…する。…損ねる
(例)字を書き損なう。人を見損なっては困る。
(2)…する機会を逃す。(例)映画を見損なう。
(3)…るはずのところをしないでしまう。危うく…しそうになる。
(例)おぼれ損なったときの恐ろしさといったらなかった。
「V1-損ねる」:「V1-損なう」のややくだけた言い方
「V1-損ずる」:…しそこなう (例)急いては事をし損ずる。

れぞれの意味について以下のように述べている。

・損ナウは主体が機会を捕えられずにうごきを実現しなかったり、また、失敗等の要因によりうごきをあるべき姿で実現できず、対象があるなら、それは不完全のまま実現することを示す。書キソコナウ(①書く機会を失う、②書き誤る)。
・損ジル(損ズル)は損ナウと殆ど同義であるが、機会ヲ失ウの意では現在あまり使われない。セイテハ事ヲ仕損ズル、書キ損ジル。 (城田 1998:147)

城田(1998)では「V1−損なう」と「V1−損じ(ず)る」について「機会を捉えられず動きを実現しなかった」という逸機の意味と、「あるべき姿で実現できない・不完全のまま実現する」という行為の失敗の意味をもつと述べている。しかし、例(6)は対象となる文字や絵が「あるべき姿で実現できない・不完全のまま実現する」という意味を表しており、「書き損なう」と「書き損じる」が両方とも使用できるが、例(7)のように対象が年賀状全体である場合、「書き損じる」は言えるのに対し、「書き損なう」は少し不自然になる。

(6) えんぴつなどの下書きができませんので一発勝負です。書き損なえ(損じれ)ば修正ができませんのでやはり緊張して書いています。
(http://blog.livedoor.jp/tanuki1955/archives/7869109.html)
2021 年 11 月 5 日閲覧

(7) 年末には大量に年賀状を書き損じた(?損なった)が、その残された書きかけの葉書を見て志村医師は
(真神博『空白の事故死』)

そのため、同じ「あるべき姿で実現できない・不完全のまま実現する」という意味を表すといっても、対象によって両者は異なるため、本研究ではどのような対象をとるかという違いについても考察する。

1.2 薛(2019)

薛(2019)は城田(1998)の記述を受け動作を行う前か後かという観点から、「V1−損なう」には次の２つの意味があり「V1−損ねる」には２の質的未完成の意味があると述べている。

1. **未着手**：動作を開始できなかった。

例：あの店に行き損なった。/今朝牛乳を飲み損なった。

2. **質的未完成**：動作を実行したが、予想通りの結果が伴わない。

例：メッセージを読み損なった。

薛（2019）は「V1−損ねる」には未着手の意味がないとしているが、例（8）のような例が見られた。これは「食べる」という行為が行われていないことから未着手に該当する。「V1−損なう」も同様に例（9）のように行動前の失敗を表すことができる。そのため、本研究では「V1−損なう」「V1−損ねる」は共に行為が始まる前の段階での失敗を表すこともできると考える。

（8）うちの両親は、仕事が遅くなって夕飯を食べそこねたときなどに、そろってよく浅草までおすしを食べに行っていた。

（山本益博『食べる』）

（9）今朝、化粧をしていて朝食を食べそこなった春子さんだ。

（篠田節子『交錯する文明』）

更に、薛（2019）は知覚・認識動詞や言語・伝達動詞において、「V1−損なう」は次の 2 つの意味に分けられるとし、それぞれ例をあげている。なお「V1−損ねる」には②の意味はないと述べている。

①動作が意図通りに進まず、結果が期待した水準に達していない。

②動作を完成したが、認知的処理に誤りがあるため期待の水準に達していない。

例：あのことを言い損なった：①言うべきことを完全に言わないでいる

②言い方或いはつかえ方が悪いため、目的に達成できない

メッセージを読み損なう：①全部を読まないでいる

②理解し間違える

彼を見損なった　　：②彼に対する認識が間違っている　薛（2019:88）

しかし、「言い損なう」の場合、①の意味について、「あのこと」以外のことは言ったとしても、「あのこと」に関しては言っていないため、薛（2019）でいう動作を行う前の失敗である未着

手に該当すると思われる。②の意味については、行為が途中まで行われていることから動作を行っている最中の失敗である。また、「読み損なう」の場合も同様に、①は動作を行う前の未着手であり、②の意味は「メッセージを理解する」ことが完了していないことを表すため、行為中の失敗だと考えられる。つまり、薛(2019)は行為終了後の失敗である「質的完了」の下位分類として①と②の意味を挙げているが、①は実際の行動が行われる前の失敗であり、②は行為中の失敗である。そのため、薛(2019)のいう行為の過程を再考する必要がある。本研究では「〜しよう」と思ってから行為が完了しその結果が続くまでを行為の過程とし、その過程の内どの段階での失敗であるかという観点から、「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」の違いを考察する。

また、薛(2019)はこれら②の意味は「V1−損ねる」にはないとしているが、例(10)のように「読み損ねる」での使用が見られる。

(10) よく知っているから、ことさらにその点を言わなかっただけで、指導精神を<u>読み損ねた</u>作家の方に罪はある。

(甲賀三郎『甲賀三郎探偵小説選』)

他にも薛(2019)では指摘されていないが、無意志動詞である「死ぬ」や「溺れる」と共起した場合、例(11)のように、「危うく〜ところだった」という意味をもつ。この場合、意図段階が関わらないことからも、未着手とは異なるため、本研究では未着手とは別に分類する。

(11) 五十歳の時に<u>死に損う</u>ほどの病気をして以来、私はあまり健康ではないはずである。

(鈴木健二『自分学のすすめ』)

以上、薛(2019)では行為が行われたかどうかという観点から、「未着手」や「質的未完了」「認知的処理の誤り」の意味があると述べている。これに対し、本研究では次の 4 つの用法があると考える。1 は薛(2019)でいう未着手、3 は「質的未完了」、4 は「認知的処理の誤り」である。2 の「危うく〜ところだった」という意味は本研究で新たに取り上げたものである。本研究では薛(2019)の行為のどの段階での失敗かについて再考し、「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」の違いについて考察することを目的とする。

表 1. 本研究における「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」の持つ意味

意味	V1−損なう	V1−損ねる	V1−損じ（ず）る
1. ～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった	電車に乗り損なう	電車に乗り損ねる	ボールを打ち損じ(ず)る
2. 危うく～するところだった	危うく死に損なった	危うく死に損ねた	―
3. ～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった	字を書き損なう	字を書き損ねる	はがきを書き損じ(ず)る
4. 相手への評価が想定より低い	彼を見損なった	―	―

3. 行為の過程における3語の位置づけ

本研究では行為の過程のどの段階の失敗なのかという観点から意味の違いを考察する。行為の過程は図 1 のように意図段階と行動段階の2の段階に分けられる。図 1 において横軸（x軸）は行為の経過時間を表し、縦軸（y軸）は意図・行為の達成量を表す。行為は第 1 段階として「～しよう」と意図することから始まり、第2段階として実際の行動が行われる。「言う」を例に考えると、まず何も意図していない時が⓪の段階である。次に「言おう」と思い始めてから決心するまでが①の段階で、その意思を頭に保ち続けるのが②の段階である。その後、「言おう」と思ったことを実際に行動に移すのが③の段階で、行動が終了した後にその記憶が保持されるのが④の段階である。

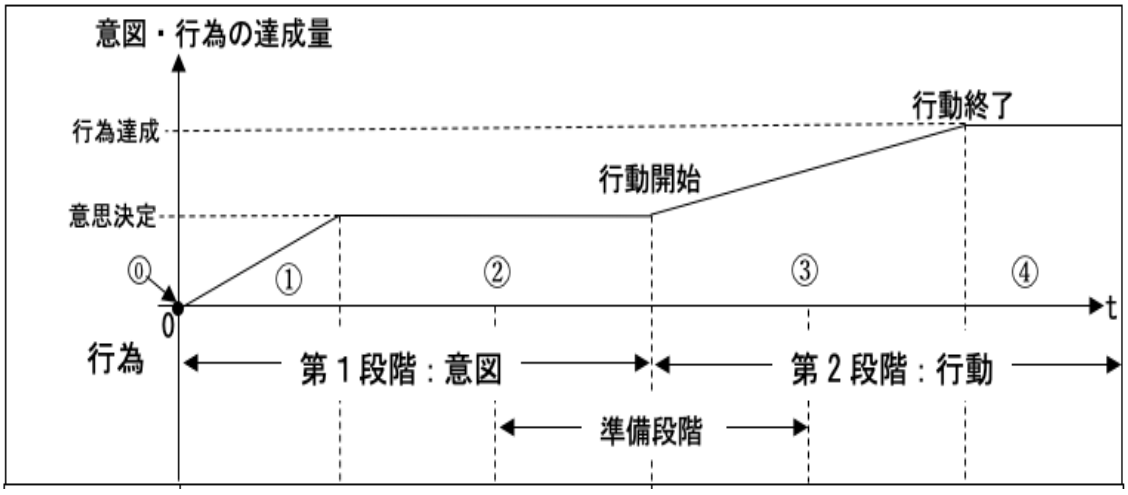

図 1. 行為の過程

また②と③の間には両者にまたがる準備段階がある。すなわち「行く」であれば、「行くため」に持っていく物を準備したり、家を出たりする段階である。例えば、「行きそびれる」はタイミングを逃した場合に使用されるが、この場合「行こうと思っていたが行けなかった」という意味を持ち、準備段階でも意図段階に近い②’の段階（本研究では準意図段階と呼ぶ）での失敗である。一方、同じタイミングを逃したという意味でも「行き損なった」であれば、行くための準備を行い、今まさに家を出る場面での失敗を表すため、準備段階でも行動段階に近い③’の段階（本研究では準行動段階と呼ぶ）の失敗である。このような用法は「行こうと思っていたが、そのことを失念してしまい行けなかった」という「V1−忘れる」（②意図段階での失敗）とは区別する。

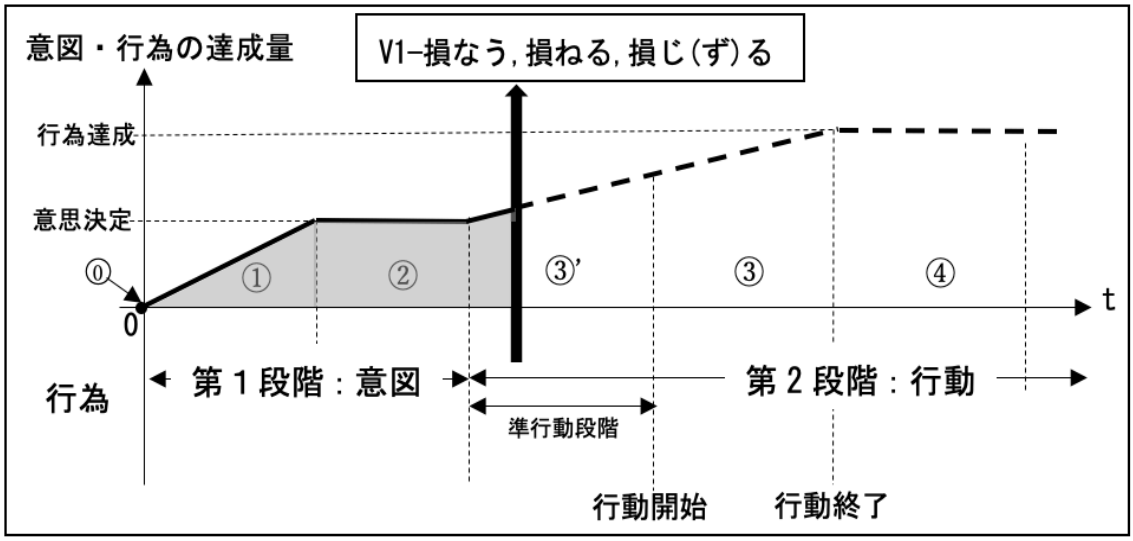

図 2. 行為の過程における意図段階での失敗「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」

以下、本研究では「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」の各用法が行為の過程のうちどの段階での失敗を表すかを考察する。

3.1 「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」の意味の場合

まず、「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」が「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味を表す場合について考察する。例えば、例（12）～（14）の場合、心の中で「曲がろう」と決めたが（①）、そのタイミングを逃し、「曲がる」という行動（③）まで至らなかったことを表している。これは単に曲がろうと意図しただけでなく、実際に「曲が

る」という行動まではいっていないものの、「曲がる」までの準備を行い、今まさに行おうという時にタイミングを失敗しているため、先の図 2 の準行動段階（③’）での失敗であると考えられる。「V1−損じ(ず)る」の場合、言い換えると不自然になるが、インターネット上には一部「曲がり損じる」の使用が見られた。

（12） 曲がるべき角で曲がりそこなった（損ねた/?損じた）り、一方通行の出口から進入したり、とにかくてんやわんやで

（なかにし礼『道化師の楽屋』）

（13） フェラーリは、急カーブを曲がりそこねて（損なって/?損じて）崖から転落した。

（笠井潔『サイキック戦争』）

（14） 最初は矢岳登山口最初の右折箇所を曲がり損じ（損ない/損ね）、先で右折してしまい

（https://mapskeyz.com/矢岳登山口駐車場/）

2021 年 9 月 16 日

しかし、例（15）のように V1 の行動を行う準備を行ったかどうか曖昧で、「朝食を食べよう」と思ってもすぐその行動に移らない場合がある。このような場合「V1−損じ(ず)る」は不自然になる。しかし、同じ「食べる」でも例（16）のように「カエルを食べよう」と思いすぐその行動に移り、今まさに行おうとするときの失敗であれば「V1−損じ(ず)る」が使用できる。

（15） 今朝、化粧をしていて朝食を食べそこなった（損ねた/*損じた）春子さんだ。

（篠田節子『交錯する文明』）

（16） この釣ったライギョも七十くらいはありますけど、カエルを食べ損なった（損ねた/損じた）ライギョは、もうひと回りデカイ奴でした。

（Yahoo!ブログ）

また、例（17）のように実際に V1 の行為を行っているものもある。これは実際に行動を行っているため、3.3 で述べる行動段階（③）での失敗である「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」に分類する。本研究では時間的なタイミングの失敗の場合、「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」という意味になり、

対象の失敗であれば「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味に分類する。

（17）ダンカンの銃は、てめえを撃ち損じても、隣の娘には当たる。

（フレデリック・フォーサイス(著)/篠原慎(訳)『ネゴシエイター』）

以上のように、「V1−損じる」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」は行為を行おうと準備し今まさに行おうとする準行動段階での失敗として、「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」の意味を表す。しかし、「～しよう」と思い、すぐその行動に移らない場合は「V1−損じ(ず)る」は不自然となる。

3.2 「危うく～するところだった」の意味の場合

次に「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」が「危うく～するところだった」という意味を表す場合について考察する。この用法は「死ぬ」や「溺れる」といった無意志動詞と共起する。例えば例（18）の場合、「死のう」という意図は始めからなく、単に死にそうだったのに死ななかったことを表している。ここで敢えて「V1−損なう」を使うことにより、死ぬはずだった運命がその通りにならなかったという皮肉な言い回しをした表現になっている。

（18）五十歳の時に死に損う（損ねる/*損じ(ず)る）ほどの病気をして以来、私はあまり健康ではないはずである。

（鈴木健二『自分学のすすめ』）

この場合の「死ぬ」には意図性がないため、行為の過程は図3のように意図段階がなく、行動段階のみのものとなる。この図において、例（18）の「死に損なう」のような表現は⓪段階での失敗を表すと考えられる。「V1−損ねる」も同様である。ただし、「V1−損じ(ず)る」にはこのような⓪段階での失敗を表す用法はない。

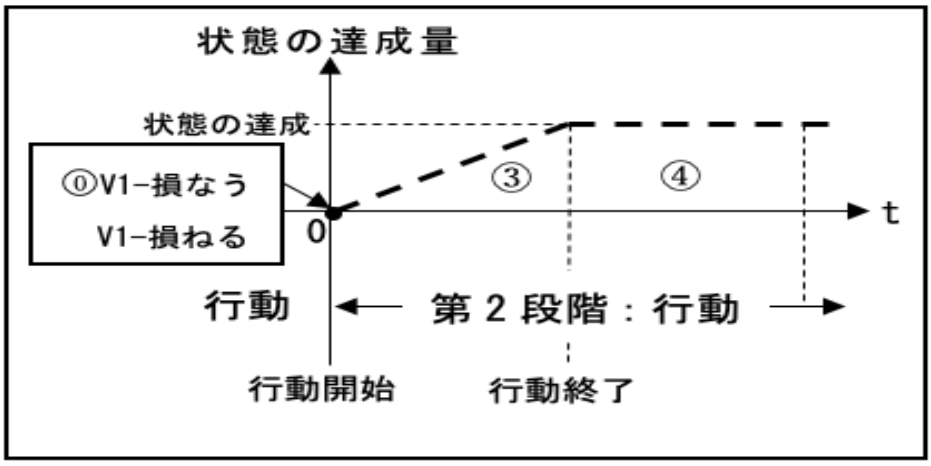

図 3. 行為の過程における⓪段階の失敗「V1−損なう」「V1−損ねる」[2]

なお、例（19）は主体が意図的に死に場所を探している場面で使われたものである。この場合は、「死ぬ」に意図性があるため、「死にたいと思っていたが、タイミングを逃し死ねなかった」という意味になる。（3.1 参照）

（19） 三島楯の会事件の前夜、女と寝ていたために蹶起に間にあわず死にそこね（?損なった/*損じ）た青年がいる、と設定する。

（平岡正明『大革命論』）

3.3 「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」の意味の場合

次に「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」が「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味を表す場合について考察する。これは例（20）のように「読もう」と思い（①）その記憶を保持し（②）、実際に「読む」という行為は行った（③）ものの、期待に反して本の内容を 100％理解できなかったことを表している。これは行動段階での失敗であるため図 4 の③の部分での失敗であると考えられる。

（20） よく知っているから、ことさらにその点を言わなかっただけで、指導精神を読み

[2] この用法は「死のうと思う」のような意図段階がないため、図 3 は第 1 段階である意図段階がない第 2 段階の行動段階のみの図である。

損ねた(損なった/損じた)作家の方に罪はある。

(甲賀三郎『甲賀三郎探偵小説選』)

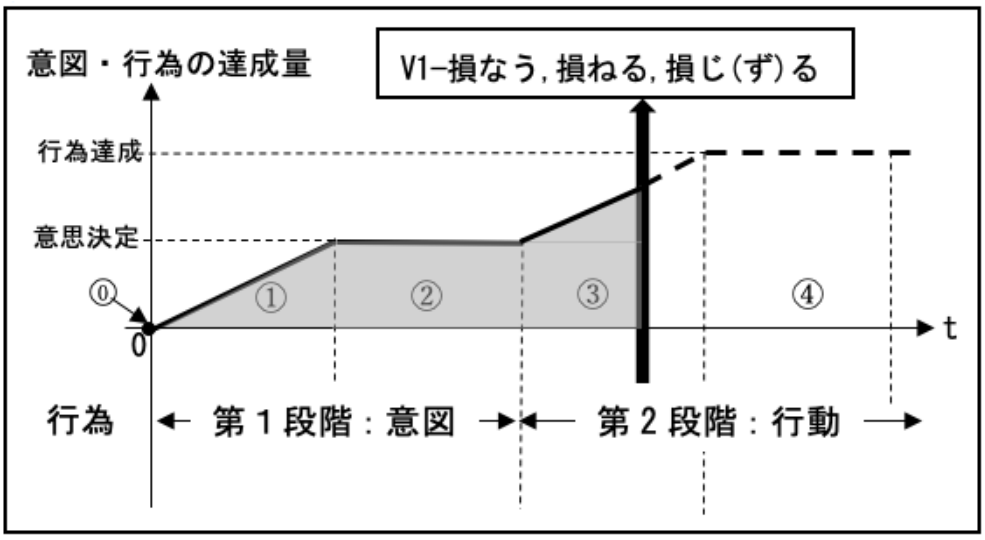

図 4. 行為の過程における行動段階の失敗「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」

「V1−損なう」と「V1−損ねる」の場合、この用法は「読む」や「聞く」といった認知的な動詞や例(21)の「たばこの火を消す」のように行為が段階的に完了することを表す動詞と共起し、「〜したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」という意味を表す。他にも例(22)のように複数ある対象のうちのいくつかを逃したという意味を表す場合もある。

(21) シチュエーションは駅のホーム。たばこの煙がたちこめています。灰皿では消しそこねた吸殻が狼煙をあげています。

(http://blog.livedoor.jp/nekosuki600/archives/51144891.html)

2021 年 8 月 29 日

(22) 一生懸命書類を数えている。たまに数え損ねては顔を顰め、初めから数え直していた。

(https://novel18.syosetu.com/n4555cy/20/)

2021 年 9 月 12 日検索

一方、「V1−損じ(ず)る」の場合は、例(23)～(25)のように「書き損じる」や「仕(し)損じる」の形で使われることが多い。例(23)は字を間違えたことを表し、例(24)は間違えた字が書かれている封筒がだめになったことを表し、例(25)は慣用表現として、何事も焦ってやると失敗することを表す。

(23) 文字を書き損ねた(損なった/損じた)時、どうしますか？ よくあるのが修正テープを上から貼ったり、修正液を塗ったりして書き直す方法。

(https://kakakumag.com/houseware/?id=8884)

2021 年 9 月 21 日閲覧

(24) 現金書留の封筒を書き損じた(?損なった/?損ねた)場合は捨てるしかないのでしょうか。

(Yahoo!知恵袋)

(25) 急いては事を仕損じる(損なう/損ねる)あまり急いで物事をかたづけようとすると、かえって失敗することが多い。

(作者不明『NHK おじゃる丸ことわざ辞典』)

このうち例(23)は「書き損なう」、「書き損ねる」、「書き損じる」のいずれも成り立つが、例(24)は「書き損じる」以外は使いにくいという違いがある。両者は共に期待通りの結果にならないことを表すが、例(23)では文字の書き間違いを表すのに対し、例(24)では単に文字を書き間違えただけでなく、封筒の破損を表しているという違いがある。このことから、対象物の物理的な破損を伴う場合には「V1−損じる」を使うのが適切であると考えられる。

3.4 「相手への評価が想定より低い」の意味の場合

最後に「V1−損なう」が「相手への評価が想定より低い」という意味を表す場合について考察する。これは例(26)のように「見損なう」の形で使われ、人に対する評価が想定していたものより低いことを表している。

(26) 「冷たいのね、夫人には。個人主義もいいところ。見損なったわ、逃げるの？」

(三田薫子『女恋坂』)

この場合の「見る」は「見なす」のように判断する、評価するという意味で使われている。この場合、「見る」という行為は行われているため、「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」と同様に③の行為中の失敗である。ただし、「見る」の意味が派生的で、一語化して慣用表現として使われるため、特に区別して意味を立てたものである。これは「見損なう」のみに見られる用法で、「＊見損ねる」や「＊見損じる」とは言わない。

4. まとめ

本研究では逸機を表す複合動詞表現である「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」について、行為の過程のうちどの段階の失敗なのかという観点から意味について考察した。その結果、逸機の意味である「～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった」以外にも、「危うく～するところだった」「～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった」「相手への評価が想定より低い」などの意味を表すことを指摘した。また、それぞれの意味が行為の過程のうちどの段階を示すかを次の図 5 に示す。「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」は広い意味で行動段階での失敗だと考えられる。

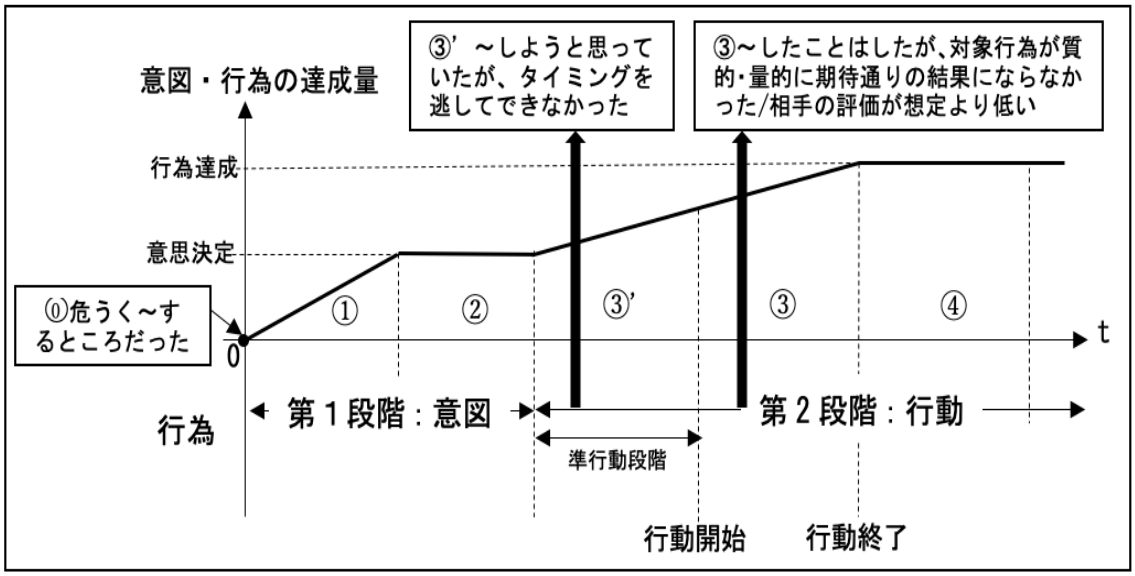

図 5. 行為の過程における「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」の位置づけ

その結果、「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」には次のような意味があることを明らかにした。

表 2. 「V1−損なう」「V1−損ねる」「V1−損じ(ず)る」が表す意味とその使い分け

行為の過程	意味	V1−損なう	V1−損ねる	V1−損じ(ず)る
⓪	危うく～するところだった	危うく死に損なう	危うく死にそこねる	—
③’	～しようとしたが、タイミングを逃してできなかった	電車に乗り損なう	電車に乗り損ねる	ボールを打ち損じ(ず)る
③	～したことはしたが、対象や行為が質的・量的に期待通りの結果にならなかった	字を書き損なう	字を書き損ねる	はがきを書損じ(ず)る
	相手への評価が想定より低い	彼を見損なう	—	—

［参考文献］

北原保雄編(2002)『明鏡国語辞典』，大修館書店

城田俊(1998)『日本語形態論』，ひつじ書房

薛婧宇(2019)『日本語の失敗を表す複合動詞と中国語との対照研究』，名古屋大学修士学位論文

南明世(2021)「行為の過程から見る失敗を表す複合動詞「V1−そびれる」「V1−そこなう」「V1−逃す」「V1−忘れる」の違いについて」『中国語話者のための日本語教育研究』，第 12 号，pp.64−78，日中言語文化出版社